

事業者行動(計画・変更計画・報告)書

2025年7月4日

(宛先)
滋賀県知事

提出者

住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地)
東京都多摩市鶴牧二丁目11番2

氏名(法人にあっては、名称および代表者の氏名)
MMIセミコンダクター株式会社
代表取締役 用害 毅

滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例

第25条第3項→第25条第4項
第27条第1項→第27条第2項において準用する同条例
第26条第1項
第27条第2項において準用する同条例第26条第1項

第25条第4項の規定に基づき、
[事業者行動計画を策定(変更)した]ので、提出します。
[事業者行動報告書を作成]

事業者の氏名 (法人にあっては、名称および代表者の氏名)	MMIセミコンダクター株式会社 代表取締役 用害 毅
事業者の住所 (法人にあっては、主たる事務所の所在地)	東京都多摩市鶴牧二丁目11番2

1 事業所の概要

事業所の名称	MMIセミコンダクター株式会社								
事業所の所在地	滋賀県野洲市市三宅686番地2								
主たる事業	日本標準産業分類 細分類番号	2	8	1	4	※産業分類・細分類名称を記載 集積回路製造業			
事業の概要	集積回路製造業								
従業員の数	371	人	操業時間	24	時間/日				
該当する事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/>	原油換算エネルギー使用量が、年間1,500キロリットル以上の事業所を県内に有する事業者							
	<input type="checkbox"/>	従業員数が21人以上であって、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を県内に有する事業者							
	<input type="checkbox"/>	任意提出事業者							
主要な設備	ボイラ	4	台	熱源設備	4	台	照明設備	約20000	台
	コンプレッサ	5	台	空気調和設備	約100	台	その他		

2 計画期間(および報告対象年度)

計画期間	開始年度	2022	年度	報告対象年度	2024	年度
	終了年度	2028	年度			

3 計画の(内容・実施状況)

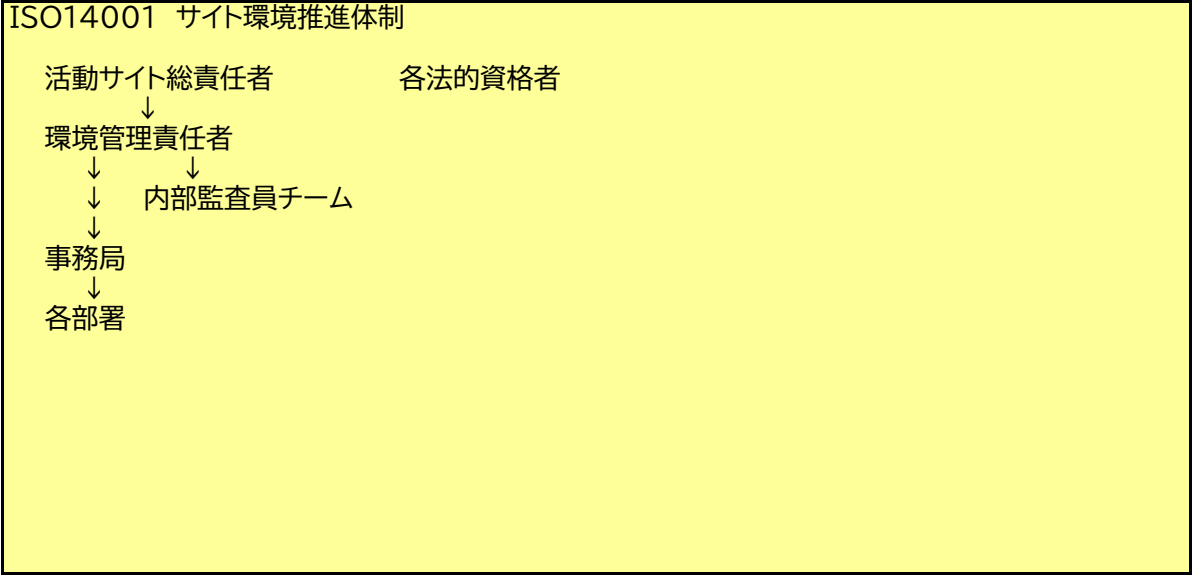
計画の(内容・実施状況)	別添のとおり
--------------	--------

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番とします。

1 CO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

ミネバアミツミ株式会社の環境方針に則り
・「エネルギー消費の少ない製品」をお客様に提供
・生産時の「使用するエネルギー量の削減」
・CO₂排出量削減を含めた「物量手段の選択」
に配慮します。

2 取組の推進体制



3 これまでに取り組んできたCO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組

<法的対応>
2022年6月 エネルギー指定工場、並びにエネルギー指定事業者の指定を経産局より受ける。
2022年7月 エネルギーの中長期計画、並びに定期報告を経産局に提出。
2023年8月 エネルギーの中長期計画の進捗、並びに定期報告書を経済産業局に提出。
2024年7月 省エネ法の中長期計画書と定期報告書を経産局に提出
2025年7月 //

<社内取組>
2021年10月 操業開始 事業譲渡元にオムロン株式会社様と切り分けしたエネルギーの計量。
2022年4月 エネルギー原単位1%削減目標を策定し省エネ改善開始。→結果未達
2023年4月 エネルギー原単位を2021年比2%削減目標を策定し改善開始
2024年4月 2023年原単位1%削減目標が10%削減達成。2024年は目標2%削減で設定。
2025年4月 2024年原単位2%削減目標が未達。2025年度は2023年度比4%削減で設定。

<設備改善>
RO膜ポンプの省エネ型機器への更新。
エネルギー以外の温暖化ガス排出の抑制のために、排ガス除害装置の積極的導入。
オフサイトで組合方式PVによる低圧自己託送が、エネ庁と送配電会社の確認が完了し開発に着手。
コンプレッサーのエアー漏れリークチャックの実施と、修繕の計画立案中。

(第2面)

4 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組

(1) エネルギー起源CO₂排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	運用改善	エネルギー使用量見える化のための計量と傾向管理	2022年～	エネルギー使用量の親会社へのレポート
2	設備導入	RO膜ポンプの省エネ型機器への更新	2022年	更新完了
3	プロセス改善	エネルギー使用設備の稼働率向上のための、歩留り(トランザクション数)の向上化	2022年～	毎月の目標を作成し予実管理の実施
4	プロセス改善	圧空の漏れ修繕	2025年度	リークチェックを完了し修繕計画を立案中
5				

(2) エネルギー起源CO₂以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

	温室効果ガスの種類	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	非エネルギー起源CO ₂	半導体生産プロセスから発生する、地球温暖化ガスの排出を、除害装置の積極導入による排出量削減。	2023年	2024年の排出量が3k _t -co ₂ 以下に改善
2	非エネルギー起源CO ₂	客先要望により、PFCの回収を90%以上とするように、除害施設の更なる導入による排出量削減。	2027年	使用PFCの93%を回収
3				

(3) 上記の取組により達成しようとする目標および目標の進捗に対する自己評価

取組目標および目標設定の考え方	目標の進捗に対する自己評価
<p>操業して間もない半導体製造事業者です。2021年～2023年は、経産局補助金を利用して生産設備の増設期間と考えています。2024年から導入設備の成果と、歩留りの向上により、原単位の改善に貢献する。</p>	<p>操業開始2021年の半年間を基準年としている。2022年度は事業拡大に向けた先行投資年の位置づけでエネルギー原単位は大幅に悪化した。2023年度も投資は継続したが、事業拡大成果が出始めた結果、原単位が対前年度比10%削減の改善ができた。2024年は中国EVを中心に半導体市場が低迷し原単位悪化。また投資の際に除害施設を大量導入し、半導体プロセス由来の地球温暖化ガスの削減が図れた。</p>

(4) 温室効果ガス排出量等の実績

	計画開始年度前年度の実績	実績報告					
		(2022)年度	(2023)年度	(2024)年度	()年度	()年度	
原油換算エネルギー使用量	kL	5,227	11,787	12,268	13,076		
温室効果ガス総排出量	t-CO ₂	7,849	20,107	21,999	23,659		
エネルギー起源CO ₂	t-CO ₂	7,849	14,323	18,587	23,659		
非エネルギー起源CO ₂	t-CO ₂						
CH ₄	t-CO ₂						
N ₂ O	t-CO ₂						
HFCs	t-CO ₂						
PFCs	t-CO ₂	不明(起業1年未満)	5,784	3,412	※2,972(3000未満)		
SF ₆	t-CO ₂						
NF ₃	t-CO ₂						
エネルギー等原単位の推移		3.007	3.138	2.476	2.778		

備考「温室効果ガスの種類別の排出量内訳」欄については、事業者行動計画の提出義務の要件に該当しない温室効果ガスの排出量は、記入する必要はありません。

5 再生可能エネルギー等の利用に関する取組

(1) 再生可能エネルギー等の利用に関する取組の内容等

■ 計画最終年度までの取組の内容等

	実施計画		実績報告
	取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	サイト外に太陽光発電所を大量誘致し、事業所まで低圧自己託送を実現し、電力の18%を再エネに変更する	2025年発電開始	低圧自己託送の工ネ庁と送配電会社の確認が完了し開弁に着手
2			
3			
4			
5			

■ 中長期的な取組の内容等

	取組の内容
1	
2	
3	
4	
5	

(2) 所有する主な再生可能エネルギー設備

太陽光	0 kW	水力・小水力	0 kW	地熱	0 kW
太陽熱	0 kW	バイオマス	0 kW	その他 ()	0 kW
再エネ設備を効率的に利用する設備の導入実績	オフサイトに組合方式で太陽光発電所に誘致予定。(使用電力の18%相当量)				

(3) 再生可能エネルギー電気設備での発電量および自家消費量の実績

	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
		(2022)年度	(2023)年度	(2024)年度	()年度	()年度
再エネ電気設備での発電量	kWh	0	0	0		
上記のうち自家消費量	kWh	0	0	0		

(第4面)

6 事業活動を通じた他者の温室効果ガスの排出削減によりCO₂ネットゼロ社会づくりに貢献する取組

(1) 取組の内容およびその実績

取組の内容等	取組の実施状況
省エネ型商品の新規開発による、製品利用者の省エネ	自動車メーカーにパワー半導体の新製品を採用されている。
	CO ₂ 削減貢献量
	計量せず t-CO ₂

(2) 上記の取組により達成しようとする目標および目標設定の考え方

目標および目標設定の考え方
パワー系半導体の開発生産により、例えばハイブリッドカーや電気自動車にのメーカーに供給することにより、社会全体での温暖化ガス排出料に貢献している。 そのための、半導体製品の開発テーマ達成に注力する。

(3) 上記の取組にかかる目標の進捗に対する自己評価およびCO₂削減貢献量の算出根拠

目標の進捗に対する自己評価
開発テーマ数の達成確認で、取組の予実を確認。
CO ₂ 削減貢献量の算出根拠
算出せず

7 その他のCO₂ネットゼロ社会づくりに資する取組

(1) 調整後排出係数に基づく温室効果ガス排出量の推移

項目	単位	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			(2022)年度	(2023)年度	(2024)年度	()年度	()年度
温室効果ガス 排出量の推移	t-CO ₂	1,879	15,099	28,868	23,659		
エネルギー起源CO ₂ 【調整後排出係数】	t-CO ₂	1,879	9,315	25,456	23,659		
【調整後排出係数】	kg- CO ₂ /kWh	0.362	0.299	0.434	0.419		
特記事項							

(2) クレジット等購入

項目	単位	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			(2022)年度	(2023)年度	(2024)年度	()年度	()年度
グリーン証書の購 入	t-CO ₂	0	0	0	0		
クレジットの購入	t-CO ₂	0	0	0	0		
特記事項							

(3) 通勤や出張など人の移動および物流における脱炭素化の取組等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケ ジュール	
1	汚泥収集 運搬	構内にトラックスケールを設置し、汚泥の収集運搬 を京セラ様と混載運搬し物流トラックの炭素減量	週2回	年間104便の混載運搬実 施
2	廃棄物収 集運搬	近隣企業と混載(有価金属月1回、廃液2か月に1 回、レジスト廃液年4回、混合廃棄物年5回)	左記参照	年間27便の混載運搬実施
3	廃棄物収 集運搬	廃プラスチックのルート回収	週1回	年間54便のルート回収実 施

(4) 業務で使用する車輛の脱炭素化の取組

	項目	単位	計画開始年 度前年度の 保有台数	実績報告				
				(2022)年度	(2023)年度	(2024)年度	()年度	()年度
	保有車輛の数	台	2	2	2	2		
	上記のうち 次世代自動車等 の数	台	2	2	2	2		
特記事項								

(5) その他のCO₂ネットゼロ社会づくりに向けた取組等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組内容	実施 スケジュール	
1	SDGs	琵琶湖の日の清掃活動に参画	7月	社内公募ボランティア により参画
2	SDGs	友川の清掃活動を企画運営	年2回	社員ボランティアによ る実施
3	環境マネジ メントシステム (EMS)	ISO14001認証取得、維持及び更新の第3者審査受信	11月	認証継続
4	3R	産業廃棄物のリサイクル推進	通年	リサイクル率の維持
5	その他	湖南環境協会に加盟し各種行事に参画している	通年	社員2名の参画